

＜秋の気配＞朝晩がめっきり涼しくなり日の落ちるのも早くなってきました。まさに“処暑”です。しかし富士の斜面にはまだ残雪が見られ、このまま新雪を迎えるかもしれません。一方、キャンパスの自然には確かな秋の気配が感じられます。まずはあっという間に赤く色付いたヤマボウシの実です。早速、口にしてみました。あまり甘くはないのですが果肉はマンゴーのような色と舌触りです。



＜ヤマボウシの実＞

＜萩の花、尾花葛花＞と秋の七草は始まります。萩はヤマハギを指しているようでキャンパスでは 7 月の半ばからずっと咲いています。最近では仲間のネコハギの可愛い花が見られるようになりました。同じく仲間のイヌハギより小さくて全体に毛が生えているので“ネコ”という名になったようです。また、良く刈り込まれた芝地にはヤハズソウの花が咲いています。よく目を凝らさないと見過ごしてしまうほど小さなマメの花です。“ヤハズ”の



＜ヤマハギ＞

名の通り葉っぱを引きちぎると“矢筈(矢を弦(ツル)に留めるV字型の細工)”の形が残ります。これらに比べて格段に大きいクズ(葛)の花も咲き出しました。クズは根(塊根)、つ



＜ネコハギ＞



＜ヤハズソウ＞

る、葉から花まで利用されてきたのですが、今では有害植物とされたり世界の侵略的外来種ワースト 100 の一つにされています。

＜何となく幸せ＞クズと同じくあちこちにはびこっている



のがヤブカラシです。その葉の上にハートを背負ったエサキモンキツノカメムシ(左写真)を見つけました。この虫は溢れる母性愛(?)で卵と幼虫を守り育てます。舌を噛みそうな名は“エサキ(名付けた人)・モンキ(紋黄)・ツノ・カメムシ”となり



ます。もう一つ、ちょっと紹介が遅くなりましたが、キボシアシナガバチの巣(左写真)を見つけました。目に染みるような鮮やかな黄色をしています。そして最後に小さな金色の花を!!



林の脇に咲き出したキンミズヒキです。

＜キンミズヒキ＞ (文と写真: 松本正勝)